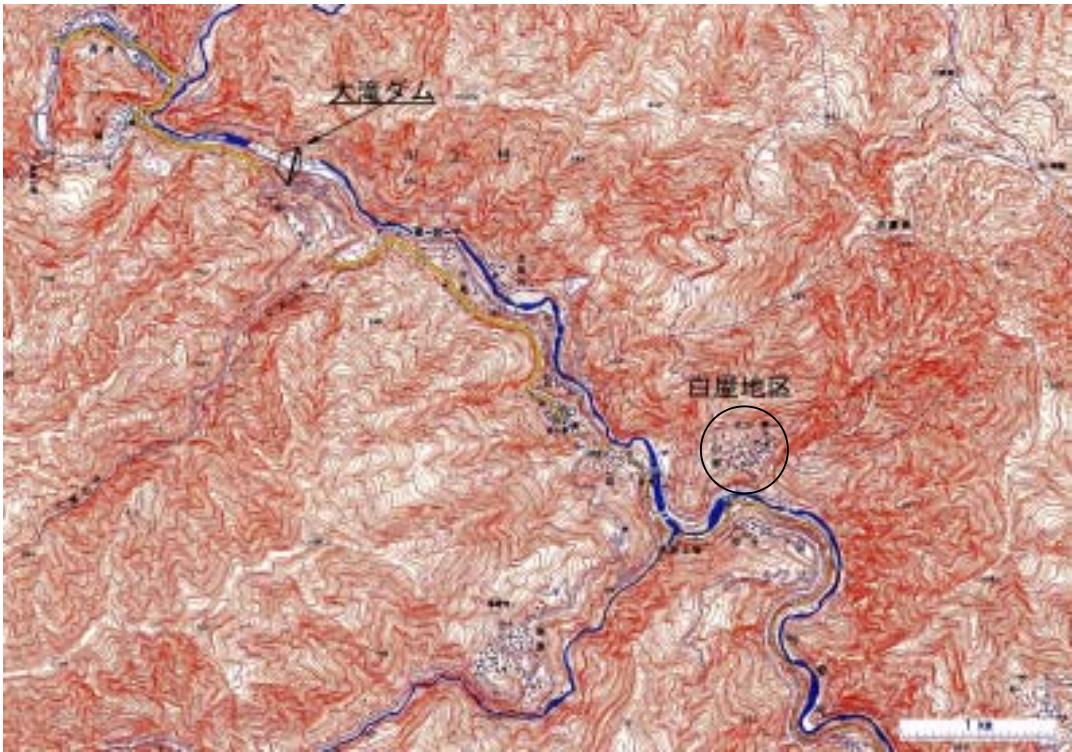



. 背景		
事 項	要 点	備 考
2 . 地形・地質	<p>(1) 地形概要</p> <p>紀伊半島の中心部紀伊山地は、大峰山脈や大台ヶ原山など標高 2,000m 近い山々が連なる急峻な地形を呈し、年間 4,000mm に達する多雨地帯となっている。大滝ダムの貯水池となる吉野川は、この紀伊山地を源頭部とし、蛇行を繰り返しながら南東から北西方向に流れている。吉野川上流域では、両岸に急斜面の山が迫り著しいV字谷が発達しており、一部では垂直に近い谷壁が続く個所もある。吉野川の支流（音川，下多古川，上多古川，井光川，など）は、一般に南西 - 北東方向に流れ、本流同様V字谷が発達している。各支流の間には、標高 1,000 m を越える尾根が河川の流路とほぼ平行に連続している。</p> <p>標高が 500 ~ 600m となる付近では、山腹斜面の勾配が比較的緩い箇所が見られており、大滝ダム貯水池周辺においては、大滝，白屋，武木地区など大規模地すべり地形や地すべり防止区域が分布している。</p>	
		
	<p>図 -2.1 大滝ダム白屋地区位置図 (S=1:50,000)</p>	

背景		
事 項	要 点	備 考
	<p>(2) 地質概要 (広域地質概要)</p> <p>図 -2.4 に紀伊半島の地帯区分を示す。中央構造線から南に分布する西南日本外帯は、北から南に向かって三波川帯，秩父累帯，四万十帯に区分されている。それらは南西方向に帯状に配列するが、紀伊半島中央部では秩父累帯が欠如し三波川帯と四万十帯とが接したり、さらには三波川帯までもが欠如し、四万十帯が中央構造線を境にその北側の領家帯と接するなど、特異な分布を示す(大和大峯研究グループ,1981,1987; 栗本,1982)。</p> <p>大滝ダム貯水池周辺の地質は、主として大滝地区周辺が四万十帯に属し、寺尾地区以南が秩父帯に属している。</p> 	
<p>図 -2.2 紀伊半島の地帯区分 (URBANKUBOTA NO.38, 1999)</p>		